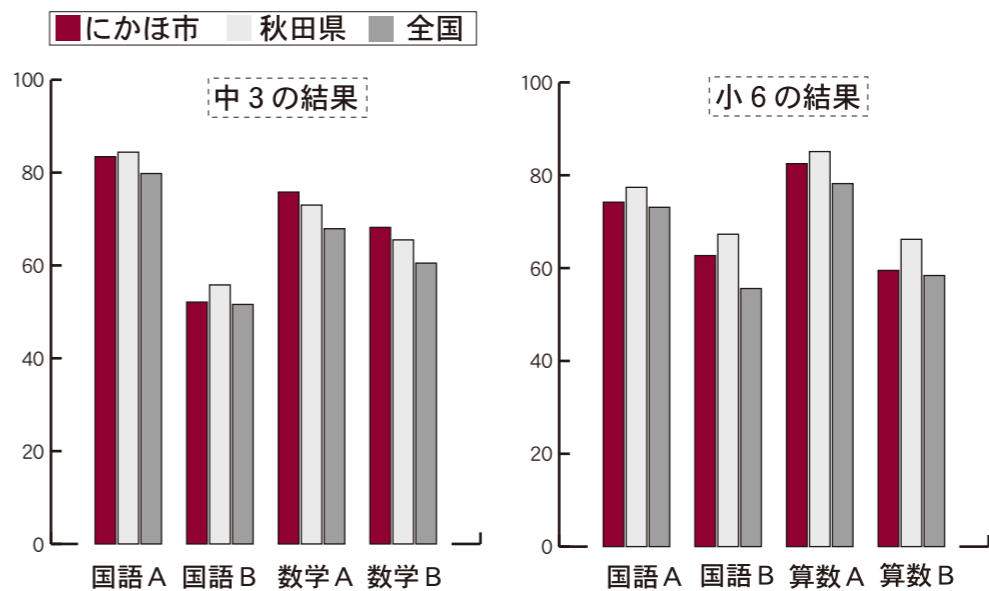


文部科学省では、今年度も小学校第6学年および中学校第3学年の全児童生徒を対象に、「全国学力・学習状況調査」を実施しました。内容は、「教科に関する調査」と、児童生徒の「生活習慣や学習環境等に関する調査」いわゆる「質問紙調査」となっています。「教科に関する調査」は、基本的な知識・技能の定着を見る「知識」に関する問題（国語Aおよび算数・数学A）と、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する能力を見る「活用」に関する問題（国語Bおよび算数・数学B）で行われました。



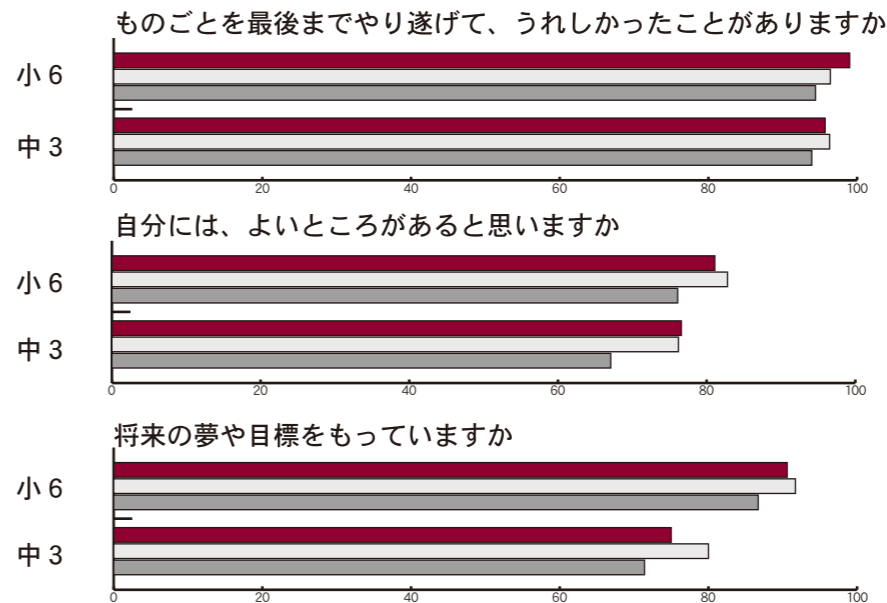
教科に関する調査

市の平均点は、小6、中3ともすべての教科で全国平均を上回っており、良好な状態であると言えます。しかし、秋田県平均と比較すると下回っている教科もあり、今後さらなるレベルアップが必要です。



生活習慣や学習環境等に関する調査

「早寝、早起き、朝ご飯」等の基本的な生活習慣は、全国、秋田県平均よりも高く、学習環境は十分に整っていると言えます。また、「自分にはよいところがある」といった自尊感情等も高くなっており、おおむね良好な状態にあると言えます。



結果の考察

小学校国語

小学校国語は、A、Bともに「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「言語」のすべての領域で全国平均より高く、県平均よりわずかに低い傾向にあります。また、得点分布を見ると、平均値は県と同じですが、やや上位が少なく、下位が多くなる傾向にあります。小問ごとに見ると、漢字の読み「勢い」の正答率は、県平均よりも高くなっており、漢字の読み書きは十分に身に付いていると言えます。逆に、故事成語の使い方や内容をまとめて書く問題は全国平均よりも低くなっており、課題があります。

小学校算数

小学校算数は、A、Bともに「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」のすべての領域で国語と同様に全国より高く、県よりは低いという傾向にあります。「数と計算」は、ほぼ県平均と同じ程度なのに対し、「量と測定」は県平均より低く、その差はやや大きくなっています。また、得点分布も国語と同様の結果となっています。小問ごとに見ると、四則混合の計算やテープ図を使った問題の正答率が県平均を上回っており、逆に示された情報をもとにして答えを導く問題に課題があります。

中学校国語

中学校国語は、A、Bともにすべての領域で全国平均を上回り、「言語」においては県平均をも上回っています。他の領域はほぼ県平均並みとなっております。また、得点分布もほぼ県と同じ傾向にあります。小問ごとに見ると、漢字の読み書きや適切な語句の選択が県平均を上回り、複数の資料から必要な情報を読み取る問題に課題があります。

中学校数学

中学校数学は、A、Bともに「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」のすべての領域で全国及び県平均を上回っており、非常に良好な結果となっております。得点分布も上位の方に固まる傾向となっております。小問ごとに見ると、8割近い小問で全国及び県平均を上回っており、記述する問題の正答率も非常に高くなっており、逆に、絶対値の問題がやや低くなっています。

質問紙調査

質問紙調査の結果では、小・中学校とも、「国語が好き」、「国語の内容が分かる」という児童生徒の割合が県平均よりも低くなっています。また、小学校では、「家の人と学校での出来事について話をする」という割合が県平均よりも低くなっています。

実際の問題と正答率

◆小学校国語Aに出された問題

- 「五十歩百歩」の最もふさわしい使い方は？
- 1 姉と私は、残りのケーキをどちらが食べるのかでもめていた。すると、母が私たちを注意して、もめごとに関係のない弟に食べさせた。弟にとっては「五十歩百歩」だ。
 - 2 私たちの学級では、学年で行われる学校対抗ドッジボール大会での優勝をめざして、ほかの学級よりもずっと前から練習を始めた。だから優勝できたのは「五十歩百歩」だ。
 - 3 山口さんと川島さんが、学校で出された宿題を5回忘れたのか、6回忘れたのかで言い争っていた。このようなことで言い争う2人は、「五十歩百歩」だ。

正答率：	市	42.1%
	県	52.3%
	全国	55.8%

正解：3

※故事成語の意味や由来について調べたり同じ意味の故事成語を集めたりする学習を重視していく必要があります。